

1 主な年齢の平均余命

平成 26 年簡易生命表によると、男の平均寿命は 80.50 年、女の平均寿命は 86.83 年となり前年と比較して男は 0.29 年、女は 0.22 年上回っている。平均寿命の男女差は、6.33 年で前年より 0.07 年減少している。また、主な年齢の平均余命をみると、男女とも全年齢で前年を上回っている。（表 1、表 2）

平均寿命が伸びたのは、性・年齢別にみた死亡状況の改善によるものである。これを死因別にみると、男は悪性新生物及び肺炎、女は心疾患（高血圧性を除く、以下同じ）及び脳血管疾患の死亡状況の改善が大きい。（図 1）

表 1 主な年齢の平均余命

(単位: 年)

年齢	男			女		
	平成 26 年	平成 25 年	前年との差	平成 26 年	平成 25 年	前年との差
0 歳	80.50	80.21	0.29	86.83	86.61	0.22
5	75.74	75.45	0.29	82.07	81.84	0.23
10	70.77	70.49	0.28	77.09	76.87	0.22
15	65.81	65.52	0.29	72.12	71.89	0.23
20	60.90	60.61	0.29	67.16	66.94	0.22
25	56.05	55.77	0.28	62.23	62.01	0.22
30	51.21	50.93	0.28	57.32	57.09	0.23
35	46.38	46.09	0.29	52.42	52.19	0.23
40	41.57	41.29	0.28	47.55	47.32	0.23
45	36.82	36.55	0.27	42.72	42.49	0.23
50	32.18	31.92	0.26	37.96	37.74	0.22
55	27.68	27.44	0.24	33.28	33.07	0.21
60	23.36	23.14	0.22	28.68	28.47	0.21
65	19.29	19.08	0.21	24.18	23.97	0.21
70	15.49	15.28	0.21	19.81	19.59	0.22
75	11.94	11.74	0.20	15.60	15.39	0.21
80	8.79	8.61	0.18	11.71	11.52	0.19
85	6.24	6.12	0.12	8.35	8.19	0.16
90	4.35	4.26	0.09	5.66	5.53	0.13

表 2 平均寿命の年次推移

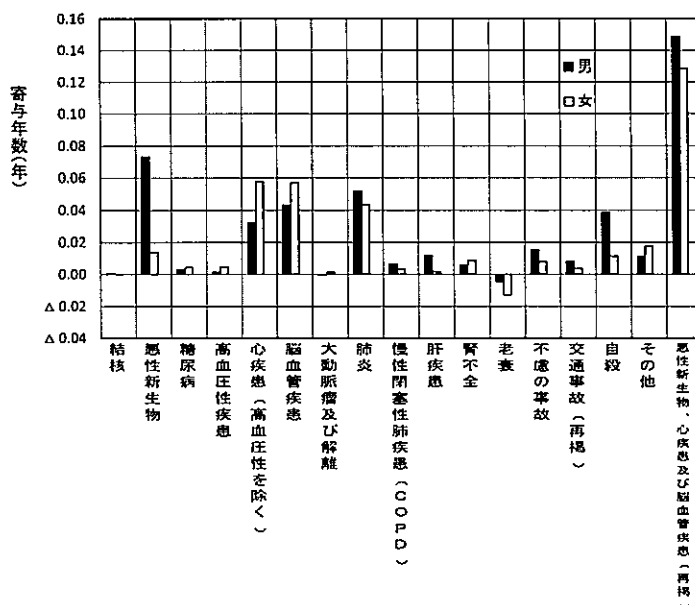
(単位: 年)

和暦	男	女	男女差
昭和 22 年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成 2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
17	78.56	85.52	6.96
22	79.55	86.30	6.75
23	79.44	85.90	6.46
24	79.94	86.41	6.47
25	80.21	86.61	6.40
26	80.50	86.83	6.33

注: 1) 平成 22 年以前は完全生命表による。

2) 昭和 45 年以前は、沖縄県を除く値である。

図 1 平均寿命の前年との差に対する死因別寄与年数



注: 交通事故は、不慮の事故の再掲である。

[寄与年数]

(単位: 年)

死 因	男	女
計(前年との差)	0.29	0.22
結核	0.00	0.00
悪性新生物	0.07	0.01
糖尿病	0.00	0.00
高血圧性疾患	0.00	0.00
心疾患(高血圧性を除く)	0.03	0.06
脳血管疾患	0.04	0.06
大動脈瘤及び解離	△ 0.00	0.00
肺炎	0.05	0.04
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	0.01	0.00
肝疾患	0.01	0.00
腎不全	0.01	0.01
老衰	△ 0.00	△ 0.01
不慮の事故	0.02	0.01
交通事故(再掲)	0.01	0.00
自殺	0.04	0.01
その他	0.01	0.02
悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患(再掲)	0.15	0.13

2 寿命中位数等生命表上の生存状況

平成 26 年簡易生命表によると、男女それぞれ 10 万人の出生に対して 65 歳の生存数は、男 88,404 人、女 93,996 人となっている。これは 65 歳まで生存する者の割合が男は 88.4%、女は 94.0%であることを示している。同様に、75 歳まで生存する者の割合は男 74.1%、女 87.3%、90 歳まで生存する者の割合は男 24.2%、女 48.3%となっている。（表 3、図 2）

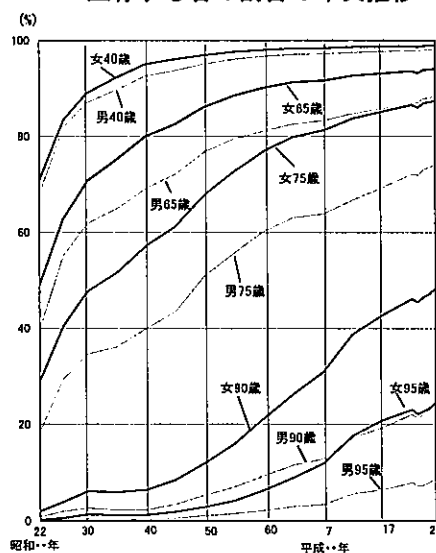
生命表上で、出生者のうちちょうど半数が生存すると期待される年数を寿命中位数といい、平成 26 年においては、男 83.49 年、女 89.63 年となっている。平均寿命に比べ、男は 2.99 年、女は 2.80 年上回っている。（表 4、図 3）

表 3 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合の年次推移
(単位: %)

和暦	男					女				
	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳	40歳	65歳	75歳	90歳	95歳
昭和22年	68.0	39.8	18.5	0.9	0.1	70.9	49.1	29.0	2.0	0.2
25~27	81.8	55.1	29.4	2.0	0.3	83.2	62.8	40.5	4.0	0.6
30	87.0	61.8	34.6	2.7	0.5	89.0	70.6	47.6	6.2	1.3
35	89.7	64.8	36.1	2.3	0.4	92.2	75.2	51.5	6.0	1.2
40	92.6	69.1	39.9	2.3	0.3	95.0	80.0	57.1	6.5	1.2
45	93.7	72.1	43.5	3.5	0.6	96.1	82.6	61.2	8.6	1.9
50	95.1	76.8	51.0	5.4	1.1	96.9	86.1	67.8	12.0	2.9
55	96.1	79.4	55.7	7.1	1.5	97.6	88.5	72.7	16.0	4.2
60	96.7	81.1	60.2	9.4	2.2	98.0	90.1	76.9	21.2	6.4
平成2	97.1	82.6	63.0	11.6	3.0	98.3	91.3	79.8	26.3	9.0
7	97.2	83.3	63.8	12.8	3.4	98.4	91.6	81.2	30.9	11.9
12	97.5	84.7	66.7	17.3	5.7	98.6	92.6	83.7	38.8	17.7
17	97.7	85.7	69.3	19.3	6.5	98.7	93.1	85.1	42.7	20.8
22	97.9	87.0	72.2	21.5	7.3	98.8	93.6	86.5	46.2	22.8
23	97.8	86.9	71.9	21.3	7.2	98.6	93.1	85.9	45.4	22.1
24	98.1	87.8	73.1	22.2	7.5	98.8	93.8	86.9	46.5	22.7
25	98.1	88.0	73.6	23.1	8.1	98.9	93.9	87.1	47.2	23.4
26	98.1	88.4	74.1	24.2	8.7	98.9	94.0	87.3	48.3	24.4

注: 1) 平成 22 年以前は完全生命表による。
2) 昭和 45 年以前は、沖縄県を除く値である。

図 2 生命表上の特定年齢まで生存する者の割合の年次推移



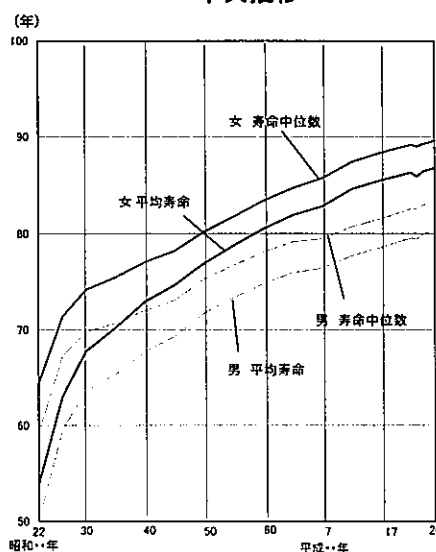
注: 1) 平成 22 年以前は完全生命表による。
2) 昭和 45 年以前は、沖縄県を除く値である。

表 4 寿命中位数と平均寿命の年次推移
(単位: 年)

和暦	男			女		
	寿命中位数	平均寿命	寿命中位数と平均寿命の差	寿命中位数	平均寿命	寿命中位数と平均寿命の差
昭和22年	59.28	50.06	9.22	64.45	53.96	10.49
25~27	67.22	59.57	7.65	71.31	62.97	8.34
30	69.79	63.60	6.19	74.19	67.75	6.44
35	70.66	65.32	5.34	75.44	70.19	5.25
40	72.00	67.74	4.26	77.04	72.92	4.12
45	73.10	69.31	3.79	78.19	74.66	3.53
50	75.31	71.73	3.58	80.17	76.89	3.28
55	76.69	73.35	3.34	81.75	78.76	2.99
60	78.06	74.78	3.28	83.38	80.48	2.90
平成2	79.13	75.92	3.21	84.71	81.90	2.81
7	79.49	76.38	3.11	85.73	82.85	2.88
12	80.74	77.72	3.02	87.41	84.60	2.81
17	81.56	78.56	3.00	88.34	85.52	2.82
22	82.60	79.55	3.05	89.17	86.30	2.87
23	82.55	79.44	3.11	88.98	85.90	3.08
24	82.95	79.94	3.01	89.25	86.41	2.84
25	83.19	80.21	2.98	89.40	86.61	2.79
26	83.49	80.50	2.99	89.63	86.83	2.80

注: 1) 平成 22 年以前は完全生命表による。
2) 昭和 45 年以前は、沖縄県を除く値である。

図 3 寿命中位数と平均寿命の年次推移



注: 1) 平成 22 年以前は完全生命表による。
2) 昭和 45 年以前は、沖縄県を除く値である。

3 平均寿命の国際比較

平均寿命の諸外国との比較は、国により作成基礎期間や作成方法が異なるため、厳密な比較は困難である。しかし、現在入手している資料を用いて比較すると、表5のとおりである。

図4は、主な国の平均寿命の年次推移を図示したものである。

表5 平均寿命の国際比較

		(単位：年)			
	国名	作成基礎期間	男	女	(参考)人口 (万人)
	日本 (Japan)	2014*	80.50	86.83	12 543
アフリカ (AFRICA)	アルジェリア (Algeria)	2013	76.5	77.6	3 830
	エジプト (Egypt)	2011	68.59	71.35	8 463
	南アフリカ (South Africa)	2009	53.5	57.2	5 298
	チュニジア (Tunisia)	2012*	71.6	76.6	1 089
北アメリカ (NORTH AMERICA)	カナダ (Canada)	2009-2011*	79.33	83.60	3 516
	コスタリカ (Costa Rica)	2010	76.82	81.78	472
	キューバ (Cuba)	2011 - 2013	76.50	80.45	1 119
	メキシコ (Mexico)	2013*	71.7	77.4	11 840
	アメリカ合衆国 (United States of America)	2013*	76.4	81.2	31 391
南アメリカ (SOUTH AMERICA)	アルゼンチン (Argentina)	2006-2010	71.56	79.06	4 166
	ブラジル (Brazil)	2013*	71.3	78.6	20 103
	チリ (Chile)	2012	76.35	81.43	1 756
	コロンビア (Colombia)	2005 - 2010	70.67	77.51	4 712
	ペルー (Peru)	2000 - 2005	69.00	74.32	3 048
アジア (ASIA)	バングラデシュ (Bangladesh)	2011	67.93	70.26	15 061
	中国 (China)	2010*	72.38	77.37	135 738
	キプロス (Cyprus)	2010-2011	79.0	82.9	86
	インド (India)	2006-2010*	64.6	67.7	121 337
	イラン (Iran)	2011	71.5	74.0	7 694
	イスラエル (Israel)	2013*	80.3	83.9	806
	マレーシア (Malaysia)	2014*	72.5	77.2	2 995
	パキスタン (Pakistan)	2007	63.55	67.62	18 435
	カタール (Qatar)	2011	76.47	80.95	183
	韓国 (Republic of Korea)	2013*	78.5	85.1	5 022
	シンガポール (Singapore)	2014*	80.5	84.9	540
	タイ (Thailand)	2013*	71.7	78.1	6 791
	トルコ (Turkey)	2013	73.7	79.4	7 615
ヨーロッパ (EUROPE)	オーストリア (Austria)	2014*	78.91	83.74	848
	ベルギー (Belgium)	2013*	77.9	82.9	1 116
	チェコ (Czech Republic)	2014*	75.78	81.69	1 051
	デンマーク (Denmark)	2013-2014*	78.5	82.7	561
	フィンランド (Finland)	2014*	78.2	83.9	544
	フランス (France)	2014*	79.2	85.4	6 379
	ドイツ (Germany)	2010-2012*	77.72	82.80	8 065
	ギリシャ (Greece)	2012	77.92	82.97	1 103
	アイスランド (Iceland)	2013*	80.8	83.7	32
	イタリア (Italy)	2013*	79.81	84.62	6 023
	オランダ (Netherlands)	2014*	79.9	83.3	1 680
	ノルウェー (Norway)	2014*	80.03	84.10	508
	ポーランド (Poland)	2014*	73.8	81.6	3 851
	ロシア (Russian Federation)	2013*	65.13	76.30	14 351
	スペイン (Spain)	2013*	79.97	85.60	4 662
	スウェーデン (Sweden)	2014*	80.35	84.05	960
	スイス (Switzerland)	2013*	80.5	84.8	804
	ウクライナ (Ukraine)	2012	66.11	76.02	4 555
	イギリス (United Kingdom)	2011-2013*	79.15	82.92	6 390
オセアニア (OCEANIA)	オーストラリア (Australia)	2011-2013*	80.1	84.3	2 313
	ニュージーランド (New Zealand)	2012-2014*	79.6	83.3	447

参考：香港 (Hong Kong) の平均寿命は2014年*で、男が81.17年、女が86.75年である。(人口 719万人)

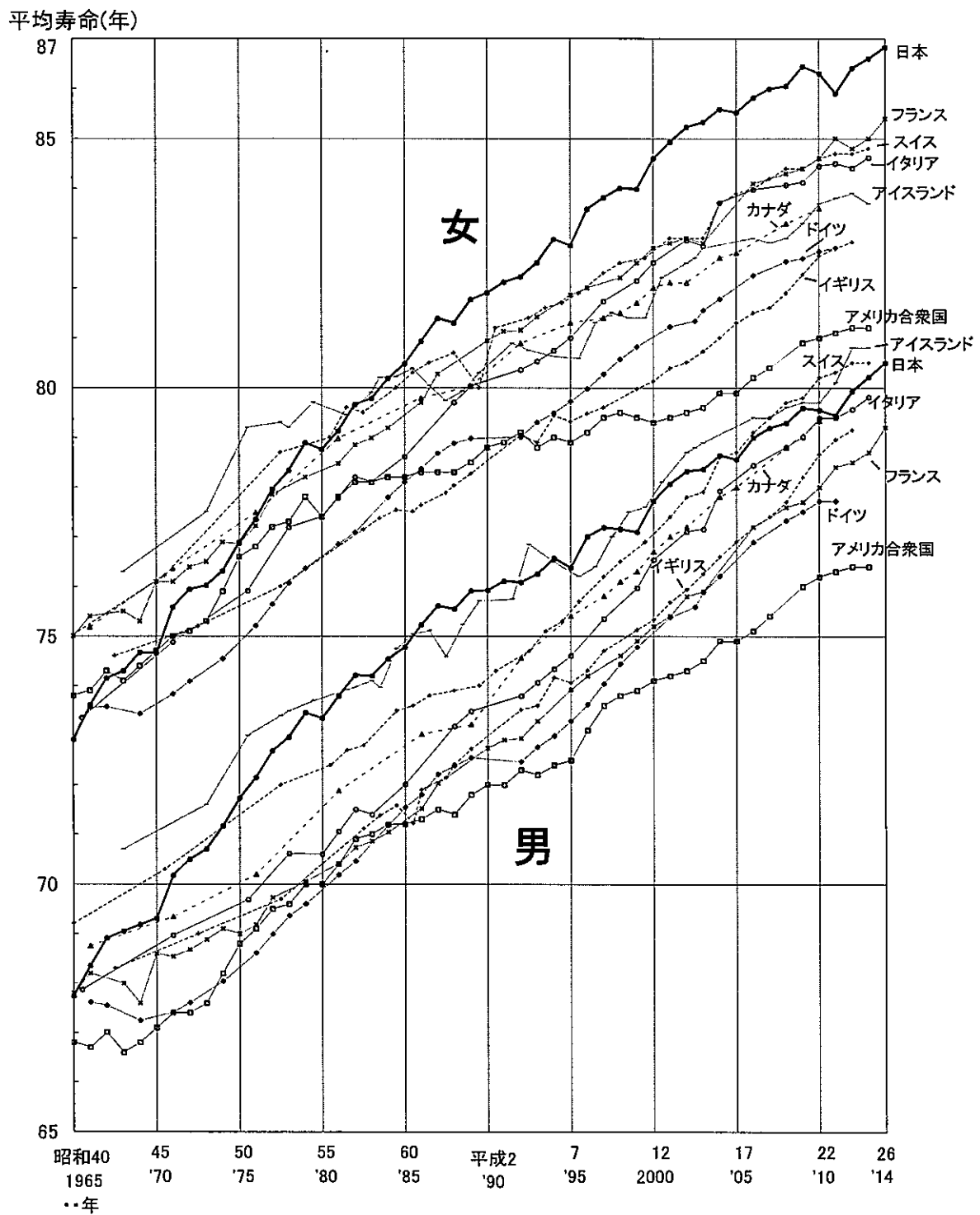
資料：UN「Demographic Yearbook 2013」

ただし、*印は平均寿命が当該政府の資料によるものである。

注：人口は年次推計人口で、2013年の値である(アメリカ合衆国、インド、カタール及びタイは2012年。バングラデシュは2011年)。

ただし、日本は平成26年10月1日現在日本人口(総務省統計局「人口推計」)である。

図4 主な国の平均寿命の年次推移



資料：UN「Demographic Yearbook」等

注：1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。

4 死因分析

(1) 死因別死亡確率

人はいずれ何らかの死因で死亡することになるが、生命表上で、ある年齢の者が将来どの死因で死亡するかを計算し、確率の形で表したものが死因別死亡確率である。

平成26年の死因別死亡確率をみると、0歳では男女とも悪性新生物が最も高く、次いで、男は心疾患、肺炎、脳血管疾患の順、女は心疾患、次いで、脳血管疾患と肺炎が同率で続いている。65歳では男女とも0歳に比べ悪性新生物の死亡確率が低く、他の3死因の死亡確率が高くなっており、75歳では更にこの傾向が強くなっている。一方、90歳では男女とも脳血管疾患の死亡確率が75歳より低くなっている。

前年と比較すると、0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で、悪性新生物の死亡確率は、男女ともに上昇している。また、心疾患の死亡確率は男では上昇し、女では低下している。一方、脳血管疾患及び肺炎の各死亡確率は、男女とも低下している。

「悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患」の死亡確率は、男では0歳及び65歳では5割を超えているが、女では0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で5割を下回っている。(図5、表6)

図5 死因別死亡確率（主要死因）

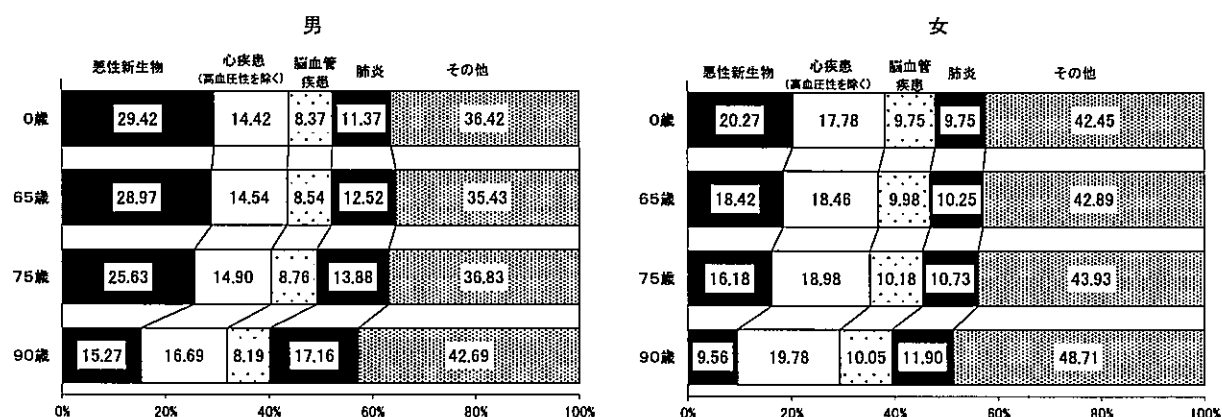


表6 死因別死亡確率（主要死因）の推移

主要死因		年齢	男					女				
			平成22年	23年	24年	25年	26年	平成22年	23年	24年	25年	26年
悪性新生物	0歳		29.76	29.10	29.32	29.38	29.42	20.53	20.05	20.22	20.20	20.27
	65		29.30	28.71	28.78	28.85	28.97	18.68	18.30	18.38	18.36	18.42
	75		26.04	25.44	25.46	25.55	25.63	16.50	16.16	16.20	16.16	16.18
	90		15.32	15.08	15.17	15.20	15.27	9.97	9.69	9.65	9.51	9.56
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳		14.54	14.41	14.62	14.31	14.42	18.93	18.36	18.44	18.00	17.78
	65		14.81	14.67	14.81	14.46	14.54	19.72	19.21	19.15	18.69	18.46
	75		15.20	15.10	15.17	14.79	14.90	20.33	19.83	19.69	19.23	18.98
	90		17.19	17.09	16.92	16.57	16.69	21.34	20.90	20.65	20.06	19.78
脳血管疾患	0歳		9.77	9.32	9.10	8.73	8.37	11.50	11.04	10.67	10.26	9.75
	65		10.10	9.66	9.35	8.95	8.54	11.82	11.40	10.96	10.51	9.98
	75		10.44	9.98	9.64	9.22	8.76	12.08	11.67	11.18	10.73	10.18
	90		10.24	9.84	9.33	8.85	8.19	12.04	11.70	11.15	10.60	10.05
肺炎	0歳		12.13	12.04	11.87	11.76	11.37	11.19	10.91	10.56	10.16	9.75
	65		13.58	13.48	13.17	13.01	12.52	11.82	11.57	11.13	10.70	10.25
	75		15.22	15.09	14.66	14.44	13.88	12.45	12.21	11.71	11.22	10.73
	90		19.77	19.52	18.54	18.17	17.16	14.38	14.03	13.21	12.60	11.90
悪性新生物、 心疾患及び 脳血管疾患 (再掲)	0歳		54.07	52.83	53.04	52.42	52.20	50.97	49.45	49.32	48.46	47.80
	65		54.20	53.04	52.94	52.26	52.05	50.22	48.91	48.49	47.57	46.86
	75		51.68	50.52	50.27	49.56	49.28	48.92	47.65	47.07	46.12	45.35
	90		42.75	42.00	41.41	40.62	40.16	43.36	42.29	41.45	40.18	39.38

注：平成22年は完全生命表による。

(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び

ある死因で死亡することがなくなったとすると、その死因によって死亡していた者は、その死亡年齢以後に他の死因で死亡することになる。その結果、死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになる。この伸びは、その死因のために失われた平均余命としてみることででき、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができる。

平成 26 年の特定死因を除去した場合の平均余命の伸びを主要死因についてみると、0 歳、65 歳及び 75 歳においては男では悪性新生物、心疾患、肺炎、脳血管疾患、女では悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。一方、90 歳においては男では肺炎、心疾患、悪性新生物、脳血管疾患、女では心疾患、肺炎、悪性新生物、脳血管疾患の順になっている。

「悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患」を除去した場合の伸びは、0 歳では男 7.28 年、女 6.02 年、65 歳では男 5.88 年、女 4.83 年、75 歳では男 4.41 年、女 3.99 年、90 歳では男 1.89 年、女 2.07 年となっている。（表 7）

表 7 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び（主要死因）の推移

(単位:年)

主要死因	年齢	男					女				
		平成22年	23年	24年	25年	26年	平成22年	23年	24年	25年	26年
悪性新生物	0歳	3.85	3.75	3.77	3.79	3.80	2.95	2.88	2.89	2.91	2.94
	65	3.00	2.93	2.95	2.98	3.02	1.99	1.94	1.95	1.96	2.00
	75	2.03	1.97	1.97	2.00	2.03	1.38	1.35	1.35	1.36	1.38
	90	0.56	0.55	0.56	0.57	0.58	0.43	0.41	0.41	0.41	0.42
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	1.48	1.46	1.48	1.45	1.46	1.53	1.47	1.47	1.43	1.42
	65	1.14	1.12	1.14	1.11	1.13	1.45	1.40	1.39	1.35	1.34
	75	0.96	0.94	0.95	0.93	0.95	1.37	1.32	1.31	1.27	1.27
	90	0.63	0.61	0.61	0.61	0.62	0.94	0.90	0.89	0.87	0.87
脳血管疾患	0歳	0.94	0.89	0.87	0.84	0.82	0.95	0.91	0.87	0.84	0.80
	65	0.76	0.72	0.70	0.68	0.65	0.85	0.82	0.78	0.75	0.72
	75	0.65	0.62	0.60	0.58	0.56	0.79	0.75	0.72	0.69	0.66
	90	0.35	0.34	0.32	0.31	0.29	0.50	0.47	0.45	0.43	0.41
肺炎	0歳	0.87	0.87	0.85	0.85	0.83	0.74	0.73	0.70	0.68	0.66
	65	0.90	0.89	0.87	0.87	0.84	0.74	0.73	0.70	0.67	0.65
	75	0.91	0.90	0.87	0.86	0.84	0.74	0.72	0.69	0.66	0.64
	90	0.74	0.72	0.68	0.68	0.65	0.59	0.57	0.53	0.51	0.48
悪性新生物、 心疾患及び 脳血管疾患	0歳	7.63	7.38	7.37	7.29	7.28	6.47	6.22	6.17	6.06	6.02
	65	6.13	5.93	5.91	5.85	5.88	5.25	5.04	4.98	4.87	4.83
	75	4.67	4.49	4.45	4.41	4.41	4.40	4.21	4.13	4.04	3.99
	90	2.00	1.93	1.90	1.89	1.89	2.34	2.22	2.17	2.09	2.07

注: 1) 平成22年は完全生命表による。

2) 悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患のそれぞれの死因を単独に除去した場合には、その他の2死因は除去されていないことから、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患のそれぞれの死因を除去した場合の平均余命の伸びを合計したものは、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の死因を同時に除去した場合の平均余命の伸びよりも小さいものとなる。